

天の魚湧く豊饒の海…が沈黙した。
深い沈黙から今起ちあがる
未生のことばの祝祭！

3・11 今こそ

Minamata Now!

2011年11月19日(土) 13:30～(受付開始 13:00)

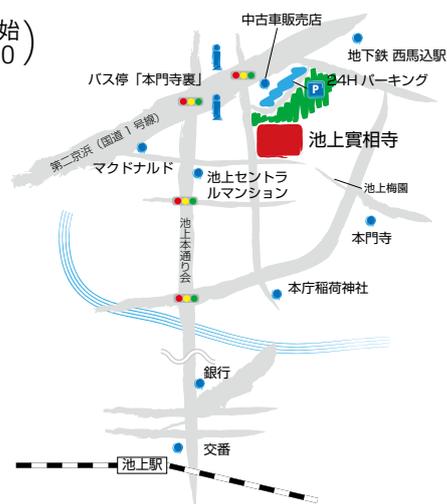
池上實相寺 東急池上線 池上駅より徒歩15分 / 地下鉄都営浅草線 西馬込駅より徒歩10分 / 東急バス(五反田⇄川崎駅)「本門寺裏」下車 徒歩2分

参加費 3,000円

申し込み・問合せ minamata_now@yahoo.co.jp

ご来場の際はマイ箸、マイ皿、マイ椀、マイカップの4点をご持参ください。
ゴミの減量にご協力をお願いします。

HPを公開中です。URL: www.cocopb.com/MinamataNow



主催 すいかよう会
協賛 ココ出版、最首塾

3.11で延期になった春の祭典“Minamata Now!”が突如として底知れぬリアリティをもって立ち上がってきました。ヒロシマ・ナガサキ・ミナマタ、そしてフクシマ……。ミナマタがみつつけた複合汚染、多様な化学物質が何百万年とかけて作り上げてきた人類の頭脳や生殖器のフィルターを通りぬけた力は、今回、多重災害の姿をとってやすやすと水際を越えてきました。今こそミナマタからフクシマへ、写真・語り・芝居、そして最後の饗宴までたっぷり満喫してください！
(主催代表：春原憲一郎)

○プログラム

13:00 ~	受付開始
13:30 ~	知る ミナマタ写真パネル展示 「水俣病と聞いて思い出すのは社会科の授業で習ったというおぼろげな記憶だ」という方も多いのではないのでしょうか。ミナマタを撮影し続けた写真家の方々や、支援活動を続けている皆様のご協力を得た展示により、「ミナマタ」のこれまでの歩みを振り返ります。 【写真家】桑原史成／宮本成美／小柴一良
15:00 ~	語る 対談「沈黙から立ちあがることば」 最首悟 × 春原 憲一郎 不知火海総合学術調査以来ずっと水俣にかかわってきた最首さんに、水俣全史について個人的なエピソードを交えて子どもたちにも伝わるようわかりやすく話していただきます。さらに「言葉なく語りかける重複障害者」の娘さんのことからフクシマへと、最首さんが希望に向けて考えつづける〈命〉学についていねいにお聞きします。
17:00 ~	観る 甦る伝説のひとり芝居『天の魚』 石牟礼道子作「苦海浄土」の1章をもとに砂田明さんが脚色・構成した演劇作品で、1979年水俣に始まった上演は、全国各地556回に及びます。92年に砂田さんが病に倒れて以後、上演が途絶えていました。今回、弟子で俳優の川島宏知さんによって、池上實相寺本堂を舞台に、胎児性水俣病の孫を持つ年老いた漁師の語り甦ります。 ひとり芝居『天の魚』 原作：石牟礼道子 脚色：砂田明 潤色・主演：川島宏知 照明：小澤明彦 舞台監督・音響：白木喜一郎
19:00 ~	喰う みんなで交流！ お食事を片手に この日の出来事を肴に参加者で語り合う時間です。初めて「ミナマタ」と出会った方も、長く付き合っている方も、お寺の広間で一緒に呑んだり食べたりいたしましょう。一見小難しいテーマには、そんな気楽な時間だって必要、ですよ？
20:00	終了

最首悟 (さいしゅ さとる)

1936年生。東京大学理学部博士課程を中退。77年、第一次不知火海総合学術調査団に参加。81年、第二次調査団団長を務める。恵泉女子大学講師、和光大学名誉教授などを歴任。『星子が居る』など著書多数。



×

春原 憲一郎 (はるはら けんいちろう)

1954年生。80年から(財)海外技術者研修協会日本語教育に従事し、現在は理事兼AOTS日本語教育センター長。著書に『わからないことは希望なのだ』など。



応援します!

野 に咲く花がたとえ枯れ落ちても
希望の種は生き続けている
傷ついた心が突きつづけても
生きている今日が明日を拓く
生きていく命が明日を変える…



加藤登紀子

「1968」という私の歌の歌詞です。私たちの豊かさやむやみな消費社会が汚し、破壊したのは海だけではなく、神様からのいただき物に支えられていた日本の暮しの尊さだったと思います。水俣の物語はその失われた過去から知らされる人としての大きさです。その感動に是非ふれてください。